

---

# 断ち切れぬ想い・・・

宵夢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

断ち切れぬ想い・・・

### 【Nコード】

N4950D

### 【作者名】

宵夢

### 【あらすじ】

私音羽真紀・・・！17歳の女子高生 金髪顔黒パラパラ大好きのいわゆるギャルです^^bも〜生活指導のセンセーたいぞー（本名は原田真人なんだけど、いかつい顔してるからあだ名がたいぞー^^b）いつものようにこっぴりしぼられてたんだけど・・・突然！？

## プロローグ

ねえ．．．．なぜあなたは．．．．!?

私はあなたと同じ人なのよ!? 何故わかってくれないの．．．!  
!??

(ああ．．! 一体何度こんな会話をしているのだろう．．．  
んなことがいいたいのでは ないのに．．．!!)

私はあなたの――です。

それは、今までもこれからかわりはありません。

あなたをお守りつづけます．．．。

(私は――であなたは――だ。これは揺るぎようのない事実．．  
!)

(そんな言葉がききたいのじゃない! あなたの．．．心がしりた  
いの．．．!)

．．．もう．．．疲れたな．．．何もかも．．．．どんな  
に扉をたたいてもびくとも しないのでは．．．)

わかりました．．．私の今までの言はお忘れなさい。

今までと同様責務を果たすように．．．!

畏まりました。ではいつて参ります。

(振り返りもしないで、去っていくあなた．．．いままでとまった  
くかわらず．．．)

．．．．．

もう、すべてを終わりにしよう・・・そう・・・この身をもって・・・！！！)

ひとつの物語が終わり時は過ぎる・・・  
本物語はこれより50年後・・・  
一人の女子高生を主人公に始まる・・・

## 日常

晴れ渡る空、白い雲・・・！ 今日もいい天気だなあ～～～  
携帯をいじりながら、学校へ歩く。家から高校までは歩いて15分  
くらいのところにある。

私は、音羽真樹17歳 ピッチピチの17歳よ～～ 本当は高校な  
んかいつてもだるいんだけどね～  
そろそろちよつとまじめに行かないと、出席日数がやばくなっちゃ  
うから仕方なく・・・

げっ！！・・・あそこに見えるのは・・・！！

見えてきた校門の脇にたっているのは、タイゾーこと原田真人。  
生活指導のセンサーなんだけど、身長が180cm以上あって顔が  
いかつい（老けてるともいう。）

あの身長で無口なものだから、はつきしいってほかの生徒からは恐  
れられてるといふ・・・ま 私にはカンケーないんだけど  
げっ！！っっておもったのは単なる遅刻すれすれで・・・

「・・・音羽。」

「せ せんせい （とっっておきの笑顔を作ってみる） 私の時計  
みてくださいよお～ ホラ まだ8時でしょお～怖い顔しないで」

「・・・」

「といつこと見え 通してくださいね」

「5分遅刻だ。遅刻10回で草むしりだったな。あとその頭も・・・

放課後生活指導室にこい。」

「だ・だから・・・！！ 私の時計が壊れてて・・・！！ ちよちよつとお～～！！」

私の言うことなんか鼻からきいていないのか、画板になにか書きながらとつとと去っていくタイゾー！

うう・・・ちよつとぐらいの遅刻なんか見逃してくれたっていいじゃない！！

まったく石頭なんだから！！そんなだから結婚もできないのよ！！もう27才のくせして～～・・・

まいったなあ・・・今日は仲間とパラパラの練習があるのに・・・うう藤田センセならみのがしてくれたのになあ・・・アタシはトボトボ歩きながら、教室に向かった。

「マキ～～ 今日タイゾーにつかまっただって？」

「りな・・・うるっさいなあ・・・家の時計がこわれてたんだよ！くそ～タイゾーじゃなきゃとおってたのに・・・！！」

「あはは しっかし、あんたらよくかち合うよね。案外マキもタイゾーのこと好きなんじゃないのお～？」

「冗談はやめてよ！！」

まったく・・・りなのからかいにもほどがあるわ。

アタシは頭痛めつつ、今日の放課後どうやって抜け出すか考えながら席に着いた・・・

このときアタシはまったく思いもよらなかった・・・  
二度とみんなとパラパラができなくなるということ、家にも帰れな  
くなるということ・・・

## 日常（後書き）

初めまして^^宵夢と申します。初小説ご覧になっていただいで大変うれしいです。本編の方はまだなにも展開されておりませんが、これからヒロインとある人物には（もう誰かは検討つくとおもいますが^^;）異世界に飛んでいただきます。まだまだ拙いと思いますが、生あったかい目でみてもらえたら光栄です^^

## 雷

かったるい・・・もうすべてがかったるい・・・

朝あれだけ晴れていたのにうつすらと雲がかかっている。なんか遠くでゴロゴロ鳴っていない!?

なぜうら若き乙女である私が草むしりなどしなくてはならないのか・・・

6限の授業が終わり、一目散に校門に走ったところ例のタイゾーにつかまった。

今やっているところはよりによって職員室の前。ちらと後ろを向くとタイゾーと目があってしまった。くそぉぉぉ 今日は何日だ

ああああ あああ、4時からのパラパラ間に合わないだろうな・・・

みんなごめんよ・・・

「音羽、手が止まってるぞ。早く帰らなければ、とっとと手を動かすのだな。」

相変わらずの仏頂面。今朝のりなではないけど担任でもないのにこやつと顔あわせる機会が多い気がする・・・かなり不本意だけど・・・

「せ、せんせ。なんだか雨降りそうじゃないですか？わたし、傘もってないんで。せんせいも傘もってないんじゃないですか？早くかえらないとやばいですよお。」

「・・・後30分だ。傘なら俺の傘が2本あるから1本使え。」

くうー！なんであんな傘を2本もってんのよ！！朝あんなに晴れてたのに！

「1本は置き傘だ。今朝の天気予報で夕方から雨が降るっていつていたものでな。ニューズぐらい見ないのか？」

「いちいちそんなのみないわよ！ てか、人の考えよむなあああ  
！」

あああ、脱力するorz

ぜええつたい、こいつと相性わるいわ。後30分か・・・シクシク約束の時間大幅にオーバーだなあ。

もくもくと手を動かす私。くそおー次こそは絶対にげきってる！

そうこうしている間に空がどんどん暗く、ゴロゴロぴかっと怪しくなってきた。

「よし、終了だ。ご苦労さん。傘もってくるからまってる。」

「あんがとさ〜ん。はやいとももってきてよ〜」。

ゴロゴロゴロゴロ ピカ ゴロゴロゴロゴロ

ちよつと〜だんだん音がおおきくなってるじゃない？ 普段そんなに雷が怖いわけじゃあないけど、こんなに音がおおきいとさすがに不安だわ。

こりゃ、練習いかずにとつと家に帰ったほうが無難かな？

「音羽、傘だ。これ持ってさっさと帰れ。」

「だれのせいで、遅くなってるのよ！ まあでも傘は借りる。あ  
りがと・・・」

ゴロゴロゴロ ピカッ トドーン

辺り一面が光った！

そう思った瞬間、私の意識は闇に飲み込まれていった・・・

## 雷（後書き）

大変長い間開いてしまいました><  
誰も覚えていないでしょうが^^^；  
少しずつトトロと更新していきたいと思いますので、お暇でしたらよんでください^^<

## 混乱

チュンチュン チュンチュン

小鳥のさえずる声、顔にかかる草の感触がくすぐつたい。

顔に降りかかる光からして、うん、今日もいい天気だ。

ん！？ いい天気！？

がばつと起き上がる私。

・・・

・・・

・・・・・・？

あれ？ 私、こんなところで寝てたっけ？

見渡してみると、空は限りなく晴れていて雲ひとつない。すずめかな、小さな鳥がチュンチュンいいながら飛んでいる。

そして顔を正面にもどすと、見渡す限りの草原。地平線なんかみえちゃってるし。

よく見ると、かなり遠くのほうで馬らしいものがのんきに草を食べている。

・・・

ここどこ？ 確か前に日本じゃ地平線は北海道でしかみえないってきいたような・・・？

雷打たれて、こんな遠くにきちゃったのか！？！？

パニックになる私。 見えるところ馬しかいないし、ど、どうすんのよ？

「音羽。」

あああ、きつと私が美人だから、どっかの秘密結社が私をさらってこんなところに・・・！！

「音羽。」

きつと黒ずくめの人（どっかの漫画の読みすぎ）にかどわかされて・  
・  
ああ！どうしよう・・・こんなことならタイゾーなんかとつとと  
ふりきつて帰るんだった！！

フウ・・・

「音羽！ いい加減、落ち着け。」

「なによ！人の名前連呼して！こっちはさつき学校の運動場にいた  
のよ！それが急にこんなところ・・・って タイゾー??？」  
さつきから後ろで声がかきこえるとおもって、後ろを振り向くと仏頂  
面したタイゾーだった。

なに、あんたもつれさられてきたの？

「ハア・・・連れ去られていない。そして、ここは地球上ではない。  
おそらくは・・・別世界だ。」

「はあ？ べつせかいい？ なに漫画みたいなことってんのよ！」

「よく後ろみてみる。すぐわかる。」

「？」

タイゾーのいうとおり、後方をよくみてみた。  
な！！ なにあれ！！！！

「うむ。我々はとんでもないところにきてしまったようだ。」

いやいやいや、そんな落ち着いてないですよ。

後ろ見てしまった私は冷や汗がたらだらだ。何がみえたって！？  
おおよそ私がいたところではお目にかかれないものだ。

かなりの広範囲で砂埃が舞い上がり、キンキンと音が鳴っている。  
よく目をこらしていると、馬に乗った人らしき人が槍やら剣やら  
もって、戦っているみたいだ・・・もといたところでも、世界のど  
つかでドンパチはしているだろうが、戦車やらミサイルやらで戦う  
だろうし、いまだき槍と剣で、しかも馬に乗ってなんてどこにもな  
いだろう・・・

呆然と見るしかない私・・・どこのよおここは！

そここうしていると、向こうの空がぴかっと光って ドーンと音  
が鳴った。

うおおおおお~~~~~~~~!!

地鳴りかと思うぐらいの音が響き渡った。どうやらぴかっと光らせ  
たほうが勝ったみたいだ。

相手側はばったばったと倒れている。

「た、たいぞ〜・・・これ、夢じゃあないよね?」

「俺はもう一度寝たが、夢ではなかった。」

もう一度ねたんかいあんた・・・

ってちよつと！ あっちの方・・・こっち近づいていない？

ややややばいわよ！ 殺されたりするんじゃない？ 汗

「た、た、たいぞー逃げよう。 やばいわよ！ わたし死にたくな  
い」

「あつちは馬だ、時機に追いつかれる。我々は敵ではないし、動かないほうがいいだろう。」

敵でもないけど味方でもないわよ！！

あああ、殺されたらあんたのこと一生恨んでやるから！

頭が半分パニックになっているうちに、ぱかぱっぱかぱと馬が寄ってきた。涙

「おい！お前たち、ここで何をしている！？」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4950d/>

---

断ち切れぬ想い・・・

2011年1月26日15時53分発行